

【科目名】	心理学統計法Ⅱ		【担当教員】	中川 明仁
【授業区分】	専門分野(公認心理師養成科目)	【授業コード】	5-30-0025-1	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 月曜から木曜、12:40~13:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本科目は、「公認心理師」養成の必修科目です。          これから心理学を学ぶ上で、もっとも基礎となる科目です。          心理学統計法は科学的な視点で心理学を理解する上で重要な科目となります。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>本科目では講義に加えて演習を取り入れて心理統計学の実際を学びます。演習を通して統計学的検定がどのようなプロセスで行われているのか理解を深めます。演習、試験において電卓を使用するので毎回の授業で電卓(√機能のついた電卓)を持参してください。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>統計学的な知識の習得を通じて行動やこころを科学的視点で理解することを目指します。          当該科目と学位授与方針等との関連性; A-2、R-2          本科目は「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」関連の科目です。</p>				
(方法)				
<p>心理学統計法Ⅰで学んだ記述統計の知識を土台として、推測統計学を学ぶ。授業の中では演習の時間を設けて、講義で得た知識を実際に自ら計算しながら、知識の定着を図る。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>統計学的な考え方を身に着けるために、推測統計の基礎を理解する。</p>				
【行動目標(SBO)】				
<p><math>\chi^2</math>乗検定、t検定、分散分析、回帰分析について説明ができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>毎回の授業で資料を配布します。</p>				
【参考書】				
<p>山田・村井(著)よくわかる心理統計, ミネルヴァ書房, 2004年, ¥2,800+税</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は本学学則規定のGPA制度に従う。出席点は評価に含みません。試験、小テストの成績を総合して評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		50	40					10	100
評価指標	取り込む力・知識	25	20						45
	思考・推論・創造の力	25	20						45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1・2	統計学的仮説検定とは	講義・演習	推測統計の考え方を理解で理解できる	120
3・4	$\chi^2$ 乗検定	講義・演習	$\chi^2$ 乗検定の基本的な考え方を理解できる。	120
5・6	t検定(1)	講義・演習	対応のないt検定について理解できる。	120
7・8	t検定(2)	講義・演習	対応のあるt検定について理解できる。	120
9・10	分散分析(1)	講義・演習	一要因の分散分析について理解できる。	120
11・12	分散分析(2)	講義・演習	多重比較について理解できる。	120
13・14	回帰分析	講義・演習	回帰分析の考え方について理解できる。	120
15	まとめ	講義	これまでの講義、配布資料をもとに学んだ内容を理解できる	120